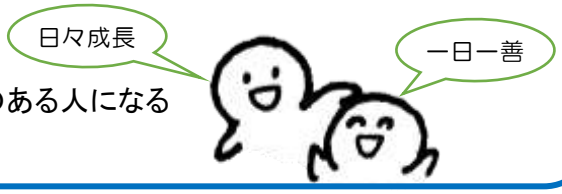
明保通信　７月号

西東京市立明保中学校

校　　訓　考える学校
教育目標　すすんで学び　心身ともに健康で　思いやりのある人になる



自助・共助

西東京市立明保中学校
校長　澤井　稔

今年は、関東大震災発生から 100 年の節目の年となります。東京都は、この節目の年に、都民一人一人の防災意識をより一層高めることを目的として、防災イベントを開催し、防災について自分事として考えるきっかけとなる取組を予定しています。本校でも安全指導を計画的に進めており、毎月１回の避難訓練の実施に加え、６月は１年生に『東京マイ・タイムライン』を活用した、地震・火災及び水害時に自他の安全に配慮した適切な行動ができるように指導を行っております。

12 年前の東日本大震災において、岩手県釜石市では、約 1,300 人の方が亡くなったり行方が分からなくなったりしました。大槌（おおつち）湾に面した鵜住居（うのすまい）地区も、津波で壊滅状態となりました。

しかし、この地区の鵜住居小学校と釜石東中学校にいた児童・生徒約 570 人は、全員無事に避難することができました。これは「釜石の奇跡」とよばれています。地震の直後、鵜住居小学校の児童は校舎の３階に避難をしました。ところが、隣の釜石東中学校では、生徒が校庭に駆け出していました。この様子を見た児童は、日頃から釜石東中学校と行っていた合同訓練を思い出し、自らの判断で校庭に駆け出しました。その後、児童・生徒は 500m 先の高台にあるグループホームまで避難しましたが、建物の裏の崖が崩れるのを見た生徒が教師にもっと高いところに避難しようと伝え、さらに高台の介護福祉施設まで避難しました。このあと、津波が堤防を越えたという消防団員や地域の人の声に反応し、子どもたちはさらに高台まで駆け上りました。そして、学校や町は津波にのまれてしまいましたが、児童・生徒は全員無事に避難することができました。

この出来事は、日頃から行われていた防災教育を学んだ子どもたちが、自分たちの普段から行っている行動を当たり前に実践した結果が起こしたものです。（出典：消防庁ホームページ「東日本大震災」より）

災害はいつ起こるか分かりません。釜石市の話から得る教訓は、有事を想定した訓練の大切さと過去から学んだ経験を次の災害に生かすということです。学校では日頃からの備えと心構え、身に付けた行動を確実にできるよう指導してまいります。ご家庭でも防災について話し合っていただくようご協力をお願いいたします。

夏休みの課題　人権作文（全学年対象）に取り組みましょう。

今年度、人権教育推進校として毎月の全校朝礼で校長から人権についての講話を行ってきました。

５月「子ども」、６月「アンコンシャス・バイアス」、７月「北朝鮮による拉致問題」をテーマに、人権課題についての正しい理解と認識を深めてきました。夏休みに、人権について普段感じていることなどを作文にまとめてみましょう。また、４月に校長から「一日一善を心がけてほしい。」と「社会性を身に付けてほしい。」について話をしました。作文を書きながら、自分と向き合い、人との関わり方を振り返り、自分の大切さとともに、他の人の大切さを認めることができる人になってほしいと願っています。

※人権について考える機会として、下のボランティア体験に参加することをお勧めします。

『夏！体験ボランティア西東京 2023』

夏休みを利用して、ボランティア体験に参加し、新しい「出会い」と「発見」をしてみよう。
受付期間７月３日（月）～８月４日（金）
体験期間７月 21 日（金）～８月 31 日（木）
詳細は、西東京市社会福祉協議会ホームページ　検索『夏ボラ　西東京』をご確認ください。
「夏！体験ボランティア西東京 2023」開催のお知らせ ｜ 西東京市社会福祉協議会（n-csw.or.jp）